

学藝員のススメ



毛利元就が出陣の時に のぼり もとなりぐんのぼり 翻った幟『毛利元就軍幟』

山岡 裕子

毛利氏は、鎌倉時代に大江広元の四男・季光が毛利荘（現在の市の一部）を相続したことで「毛利」の姓を名乗り始めました。

1月24日から開催する市制70周年記念展示「寿・毛利家と共に」では、市とゆかりのある毛利氏にスポットを当てた資料を展示します。

戦国大名として有名な毛利元就は、一代で中国地方を支配する大大名となりました。元就が出陣時に使ったと伝わるのぼり旗で、現存する3枚のうち1枚を展示します。大きさは縦が約90センチ、横が約43センチ。元々、縦長だった旗の下部が欠損したと思われ

ます。上部だけ棒に差して固定した流れ旗だったようです。

布に織り込（山口県指定有形文化財）
「毛利博物館蔵」
まれているのは「綸子地亀甲繫文」という亀の甲羅のような模様です。亀甲文は厳島神社の神文で、旗に使われた布は厳島神社の御神衣であると伝えられ、軍神の名と毛利家の家紋である一字三星紋が墨書きされています。

記念展示では他の貴重な資料も集まりますのでぜひ、この機会にご覧ください。



▲毛利元就軍幟

（山口県指定有形文化財）
「毛利博物館蔵」



博物館HPはこちら